



学校創立143周年

# 百年松

阿木名小中学校便り 令和4年5月20日発行

◇ 校訓「かしこく やさしく たくましく」  
 あ 明るく元気なあいさつができる子ども  
 ぎ りぎりまであきらめず努力する子ども  
 な 仲よく笑顔いっぱいの子ども  
 ~花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子~



## 君はスタートラインに立ったか？

校長 井上 泉

ゴールデンウィークも終わりました。今年は3年ぶりに、制限のかからないゴールデンウィークでした。

しかしながら、出かけるのにも気をもみながらだったかもしれませんね。学校はぞくぞくと、たくさんの行事が行われていきます。コロナで変更・中止を余儀なくされないよう祈りつつの毎日です。



さて数年前、高校野球のある監督さんの話を聞く機会がありました。その中で先生が話されたことです。その先生は県大会の決勝まではいくものの、どうしてもここぞという試合に勝てないことから、思い悩んで師と仰ぐ先生に相談したそうです。するとその先生が、『君はまだスタートラインに立っていないよ。君は素晴らしい指導者だと有名だ。みんながいい先生だと言っている。周りには多くの支援者がいるだろう。でもある時期、支援者の周りの人間がさあーっといなくなり、一人になる時期が来る。そのときがスタートラインに立つときだ。勝負はそこからだよ』と話されたそうです。

他の例えで考えてみましょう。マラソンなどのレースの場合、スタートする前は、友達や先生、家族などに「頑張れ、やればできる、勝てるよ、いい記録が出るよ…」などなど、励まされます。野球でベンチに仲間といるとき、バレーなどで作戦タイムを取ったとき、多くの励ましやアドバイスをもらい悩んでいる気持ちが吹っ切れたり、勇気がわいたり、やればできるかもしれないとかイメージがふくらんできます。でもそのときはまだスタートラインには立っていないのです。

マラソンのスタートが迫りいよいよ一人でスタートラインに立ったとき、初めてどんなレースをすればいいのか、野球であればベンチを離れ守備につく、打席に立つ、その時どの位置で守り、連係プレーはどうするのか、どんなボールを打てばいいのか…。バレーでボールがきた時に瞬時に判断しその動きができるのか。

全てがそのときの判断・決断・実行。プレーするのは自分なのです。仲間の支えや励ましはとても大切だけど、決断・判断し実行するのは自分。アドバイスや励ましてくれた人がプレーをしてくれるわけではないのです。

周りに流されて、みんなと一緒にすればいいという考えや、ついて行くだけの、言われるがままの生活態度や学習・部活動であれば、自分の力は出していないこととなります。耳にした、学んだ全てを実際に行動に移すことができるのか、そこからが大切なのです。うまくいけば、これまで学んだことが身についたことの証となり、思うようにいかなかった場合は、なぜうまくいかなかったのかと課題が見つかり、その課題を克服することで成長へとつながります。ですから自分でスタートラインに立ち、自分でスタートしなければならないのです。

私たち大人は、子どもたちに自分でスタートできるよう、そしてスタートする子どもたちを、離れた場所で応援し、見守る時期なのかもしれません。つい手を差し伸べ、支援したい気持ちは十分すぎるほど分かります。その思いをぐっところえ、あらん限りの力で応援あるのみです！

